

別記様式

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会（令和元年度第2回）
開催日時	令和2年2月21日（金）午前10時から午前11時40分まで
開催場所	ふれあいセンター3階 視聴覚室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、河村副委員長、小笠原委員、関戸誠委員 関戸八郎委員、尾関委員 欠席：山田委員、樋口委員、馬路委員、山口委員、 説明者：福祉課長（富）、福祉課統括主査（大島）、主任（須藤）、主任 （田中）、長寿介護課研修生（若杉）、岩倉市社会福祉協議会事務局長 （森山）、主任（石井）
会議の議題	議題 (1) 第2期岩倉市地域福祉計画の令和元年度事業報告について (2) 第2期岩倉市地域福祉計画の進捗について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	(資料1) 岩倉市地域福祉計画推進委員会名簿 (資料2) 令和元年度岩倉市地域福祉推進活動業務（進捗）報告書 (資料2-1) 住民活動計画実績報告書（平成30年度～） (資料2-2) 支援体制について (資料3) 年間スケジュール（令和元年度実施状況） (資料4) 年間スケジュール（令和2年度実施予定） (資料5) 年間スケジュール（推進構想） (参考) 令和元年度第1回岩倉市地域福祉計画推進委員会議事録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

2 議事

議題（1）第2期岩倉市地域福祉計画の令和元年度事業報告について

資料2を用い、事務局から説明がされた。

委員長：いわから福祉市民会議を第2期では校区ごとで立ち上げようということで、無事に立ち上がったという報告と、会議という形で立ち上げたので顔の見える状態で行い、限られた時間と人員の中で、どのようなメンバーで、どれくらいの頻度で、会議がどのように進み、どのように行動していったのかが資料2に書かれている。資料についての意見、または委員の中には会議に参加された方もいるかと思うがどうでしたか。

委員：地区ごとの参加者について多種メンバーで地域のことについて考えていくこと大事だと考える。

委員：校区連絡会にてまとまった発表があったのは良かった。校区ごとやってくれているが一つ一つ積み重ねが大事だと感じた。

委員：地域の方が仕掛けていくのは大変かもしれないが、気を長くして会議の回数を重ねていってほしい。

委員：もっと他方面の方々に会議に参加してもらうべき。婦人会や自主防災会にも呼び掛けてはどうか。

委員：参加してもらいたい方や団体には通知文の送付だけより誠意をもって直接呼びかけたほうが伝わるのでそうしてもらいたい。資料2で校区連絡会の参加者の詳細がないのであったほうがわかりやすいと思う。

委員長：校区ごとに会議を立ち上げるのは結構なエネルギーがいるので、社協と市役所で校区ごとの担当者を貼り付けてほしいと要望し、実現した。4月以降庁内の異動等あった場合は、再度振り返りが必要。庁内で多くの人に地域活動がどのように動いているのか周知して、参加してもらえよう働きかけてもらいたい。どういった方が参加しているのかは把握することは大事なことなので、整理と分析等を行ってもらいたい。一般の参加者がどういう経緯で参加されたのか把握しておくこと。校区連絡会は重要な会なので引き続き開催することは大事。会議の開催回数をアピールしてもいいと思う。開催日程の設定の仕方を工夫してほしい。例えば夜に開催するなど事務局は可能か。

事務局：参加者によって日時設定は対応している。東小や五条川小は区長や民生委員だけでなく、スクールガードやPTA、子ども会に参加してもらっている。これは会議内容やテーマに関係している方に参加していただくために日程を設定し、関係者に呼び掛けている。その際には文書の送付と個別案内もさせていただいている。

委員長：地域福祉計画が地域の中で見えてくる状態にするために、校区ごとの拠点づくりも行ってもらいたい。

委員：地域には色々な団体があり、地域の代表に声をかけられるような方法でやってもらいたい。またこういう会議ならぜひ参加したいと思えるような会議づくりをしてもらいたい。

委員：報告資料に詳細な記載をお願いしたい。校区ごとにどのような方が参加したのか。校区ごと

にどのような団体があるのかの分析などもあわせてお願いしたい。会議の中で活発な意見交換ができるように少人数ごとのグループ分けで話し合うなどを子ども会では行っているのもそういった手法も参考にしてほしい。

委員長：会議の運営の仕方として、校区ごとのリーダーとバックアップ者の設置が理想かと考える。理想は校区内の市民が担ってほしいが、難しいようであれば校区担当者が担い、会議の事前打合せなどを行い、当日の会議が滞りなく行えるようにしていただきたい。会議運営の見直しを行うことで今後のどういう働きかけをしていくべきか、こういった活動をしている方がいて、その方々をどうやって巻き込んで行けるかという段階に入っていける。

事務局：校区の規模によって動きやすさの違いがあることに苦慮している。北小区は大所帯のため共通のテーマを作りづらい面があり、他の小さい校区だと具体的なテーマを設定しやすいという事務局側にとって仕掛けやすい部分もあった。すべての会議の前には担当者が打ち合わせを行い当日に不備がないようにはしている。

委員長：運営していくために問題は多数あるが、継続と積み重ねが大事である。校区連絡会の在り方については見直しを行い、校区ごとでどういう成果だったのかをお互いに確認していけるようにしてもらいたい。いわくらあんしんねっとも今後の方向付けをどのようにしていくのかを検討していく必要がある。庁内連携については関係部署の課長が集まり検討していくことで今後に向けて形ができてくると考える。まるごと相談やいわくらあんしんねっとについて少し説明してもらいたい。

事務局：地域包括ケアシステムが介護保険から出た言葉であり、介護の分野では要介護、要支援者を支えるために介護や医療と連携を進めましょうということで在宅医療介護サポートセンターを設置しています。8050問題のように80歳の認知症の親と50歳の引きこもりまたは精神疾患の子との生活で親の年金のみの収入だと今後の収入で問題が出てきていきます。この件で多くの相談を受けています。引き受ける担当が高齢だけでなく障がいの分野、生活困窮については生活保護などに及ぶことがあり多岐に渡り複合的な問題を抱えた人が安心して地域で暮らしていけるように、地域福祉計画における岩倉版の地域包括ケアシステムを構築し、たとえば介護と医療の連携やシステム化を行い、さまざまな問題に対して包括的な支援体制で受けとめることができるようにいわくらあんしんねっとやまるごと相談について議論しています。

議題（2）第2期岩倉市地域福祉計画の推進について

資料4、5を用い、事務局から説明がされた。

委員長：超高齢化社会、人口減少など問題に危機感がある生活環境のなかで地域福祉計画を考えていかなければならない。第1期計画では高齢者の介護問題を中心として、介護と医療をどのようにして連携していくか、そのなかで高齢者が地域に参加をどのようにしていくかを想定し検討した。第2期計画では課題が多様になり、それが校区ごとの検討のなかで見られ、子どもを守り安全に育て地域の後継者として育てていく。また、災害に関して地域で守っていこうという取組が提案されたのも意識の表れかと思う。地域福祉計画が5年計画なので5年先を見越して考えながら作っていく。岩倉市版をどう構想していくのか考えなければいけない。それをどこで、誰が、どういう形で議論していくのか考えていく。庁内会議も含めて考えていく。第3期計画の策定委員会についても来年度進めていかなければならない。

事務局：顔の見える連携交流会において事例検討を行い、今ある問題に対してどう連携して対処すればスムーズにいくのか話し合うことで繋がりを持つことができたところもある。ただし、担当者レベルの話なので、システムまたは機能として強化していくためには改めて庁内連携の丸ごと相談機能について検討し、令和4年までには機能が始動できるようにしたいと考えている。

委員長：事例検討について市民に公表することは可能か。丸ごと相談機能を知ってもらうには市民にアピールをしていくことも大事かと。地域にどんな問題があってどのように検討してきたのかを分かってもらうにはどうしていくことが可能なのか。検討していただきたい。

委員：この計画を実施していくことの難しさは感じる。私も実際に障がい者から相談を受けて対応する機会があるので、どこまで上手く計画を築いていけるのか不安はある。なので話し合いを重ねて具体的な構想をお願いしたい。

委員長：やりながら考え、考えながらやっていくの繰り返しになっていくと思う。

委員：その都度問題は発生するだろうが、動きながら進めていけば形が見えてくることになると思う。

委員：実現できるのかなと思うが、断らない相談はぜひ実現してほしい。

委員：現状から今後どんな相談が出そうかなど情報収集をしていくことが大事。行政は完璧を求め慎重に行動するため時間をかける節があるので、もっと迅速に動きシステムづくりをしてほしい。そして庁内連携に関して、関係各課に説明しただけで終わらず、今後の計画に対して各課がどう感じ、どう対応していくのかを考えていくまで行ってほしい。

委員長：地域福祉の問題が複雑多様化していく中で、対処していく専門家集団をシステムとともに作っていく。そのためにあんしんねっとや顔の見える連携交流会などで積み重ねたものを活用して歩き出してほしい。

3 その他

特になし

委員長：他に無ければ、会議を終了する。